

■屋内緑化コンクール2025 受賞結果一覧

受賞においては、賞を提供してくださる団体にふさわしい作品を選びました。
審査日：令和7年5月30日
応募点数：作品部門63件 緑の取り組み部門18件 計81件

審査委員：町田ひろ子 町田ひろ子アカデミー代表取締役（審査委員長） 飯島 健太郎 東京都市大学総合研究所教授
豊田 正博 兵庫県立淡路景観園芸学校 客員教授 槇島みどり 東京農業大学客員教授 景観デザイナー
松本 博 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 前田 悟 屋内緑化推進協議会会長

授賞		No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
作品部門（A）	農林水産省農産局長賞	A-1	ITOKI DESIGN HOUSE	東京都中央区	株式会社イトーキ 株式会社グリーンディスプレイ	近年働く場所での人的資本経営の重要性が高まる中、働く人のエンゲージメントを高める、出社したくなるオフィスが求められている。オフィス家具メーカーの本社ビルであり、顧客への提案につながる、活動ごとに場所を選択できるABW（Activity Based Working）の働き方を実践し、集中できるような空間デザイン、視線を変える、仕切る、つなぐ、を家具＋グリーンにより実現している。従来の貸鉢による観葉植物配置ではなく、植物の生長にも配慮した外光の取り入れ、送風ファンによ風、密度を調整することで抜け感をつくる等、設計段階から工夫を行っている。植物生育を確保するため、排水性と保水性に優れた土壌、搬入前からの照度馴化等万膳の処置を行っての緑化であり、加えて従業員による管理とそれによる満足度の調査も行われている。 この考え方、手法は今後に向けた緑化提案を実践している模範的な事例と捉える事ができ、農林水産省農産局長賞に選ばれました。
	公益財団法人日本家庭園芸普及協会会長賞	A-5	ウエルカム＆ブレイ	神奈川県川崎市	NECフレンドリースタフ株式会社 グリーンコンチネンタル株式会社	グループ会社のオフィスキーピング&オフィスクリーンサービスを行う企業としてオフィス緑化に取り組んだ事例である。屋内緑化への期待として、①自然の癒し効果、②落ち着きの向上、③ストレスや不安の軽減、④ポジティブなエネルギーと雰囲気、を取り上げこれらの期待に応えるためバイオフィリックデザインを意識し、在宅でも業務できる状況下、会社に来て少しでも気持ちよく仕事ができる、緑豊かで、賑わいのあるワークプレースをめざした。この屋内緑化の構築と並行し、弱った観葉植物を自社で再生させる取り組みをスタートさせている。自社敷地内にガラス温室を建て、育成環境（温度、湿度、風）を管理制御する一方、障がいを持った従業員が温室で愛情をもって散水、葉水等の手入れを開始した。 園芸の普及に大きく寄与する事例として、日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。
	屋内緑化推進協議会会長賞	A-28	indoor rainforest（インドア レインフォレスト）	東京都新宿区	株式会社 環境計画研究所 阪急阪神不動産 株式会社 株式会社 緑演舎	ブランドの新築分譲マンションを案内する常設のマンションギャラリーの事例である。まるで森林の中にいるような癒しのひとときを、リラックスしてお過ごせる環境をデザインした。「植栽とデジタルの調和」を目指し、ライブラリーフォレストでは透明なスクリーンを使用し、映像越しに植栽を見られる仕掛けを設置した。ナレτζジゾーンではタッチ式の4面サイネージを活用したデジタル植栽アートと、実際の植栽を融合させた空間を実現した。森の空気感を体感できるよう、ミストによる演出を取り入れ、風の揺らぎや湿度を感じられことで、五感で自然を感じられる空間を創出した。植栽コンセプトである「indoor rainforest」を表現するため、人工的に整えられた植栽ではなく、力強く育った自然樹形の植木で、生命力を感じさせる構成とした。 新たな緑の見せ方に空士ており、屋内緑化推進協議会の向かう方向を示唆するものとして会長賞に選ばれました。
	屋内緑化推進協議会奨励賞	A-35	緑が支えるストレス軽減オフィス	神奈川県相模原市	株式会社きらぼし銀行 株式会社日比谷花壇	銀行の「第2の本店」であり、地域社会との共生をテーマとして掲げている。銀行と市、市観光協会が連携して市の魅力を発信する場であり、施設内には多目的ホールやラウンジを設け「持続可能性」と「快適性」を両立させた職場環境の創造を目指している。ZEB Ready認証やCASBEEウェルネスオフィスにおいてAランクを取得するなど、エネルギー消費量を大幅に抑制し、環境負荷を低減しながら働く人々が心身ともに健康に過ごせる空間づくりを実現している。環境心理学およびバイオフィリックデザインの観点から、屋内緑化によるストレス軽減を図る空間設計を行っている。使用する植物は、衛生面とメンテナンス面を考慮しハイドロカルチャーを採用し、土埃やカビの発生を抑制している。植物育成用LEDライトを導入し、植物が「生きて育つ」ための空間を技術的に支えている。 バイオフィリックデザイン、植物育成用LEDランプの使用等会の向かう方向に沿っており、屋内緑化推進協議会奨励賞に選ばれました。
	一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞	A-42	みどりによるアップデート空間	東京都千代田区	大和リース株式会社 東京本店	食堂エリアを社員同士のコミュニケーションやグループ間のつながりが芽生える「I/O-BASE~インプット/アウトプットの場~」とした事例である。プレゼンテーション&ワークショツプエリア、グループ会社間の繋がりを創出するインフォメーションエリアを整備し、様々な情報の「発信」と出会い、気づきという偶発的な「受信」が生まれる場へとアップデートした。従業員でディスカッションし、コンセプトを決定し、飲食エリアは利用者と目線が合わない工夫を、プレゼンテーション&ワークショツプエリアは緑量溢れる空間で「リラックス」と「コミュニティの創出」両方の側面を叶える空間とした。衛生面にも十分に注意して、人の手に触れやすい箇所はフェイクグリーンを活用しつつ、植栽帯には生花も使用している。 天井下にはハンギングを配置しており、日本ハンギングバスケット協会理事長賞に選ばれました。
	一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞	A-59	13種の「木」と「樹」と暮らすワークラウンジ	東京都港区	株式会社パーク・コーポレーション parkERs 東急不動産株式会社	木(MOKU)をテーマにした、新築賃貸マンションで、木造RCハイブリッド構造建築の事例である。森林大国と呼ばれる日本で、昔からの木と人の身近な関係性が蘇るような空間を目指している。「温もりの木」「気づきの林」「育みの森」の3つのゾーニングに分かれ、奥に進むにつれて森の中に入っていくように緑に包まれる空間になっている。木材・間伐材の調達は、東京の森で林業を営むパートナー会社と協力で実現した。樹齡165年の“ご神木”と呼ばれていたスギのテーブル天板、切り株の萌芽を思わせる木の特殊プランターを空間の中に散りばめている。どのエリアでも樹木の使用部分や産地等、木にまつわるエピソードを視覚的に伝えるサインを間伐材で製作し、設置している。ワークラウンジに計18本の樹木の苗（ヤブツバキ、シロダモ、ホンニツケイ）を植えている。 多種の植物、木材をしようして屋内に森を出現させており、日本インドアグリーン協会理事長賞に選ばれました。

授賞		No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
緑の 取 組 み 部 門	屋内緑化推進協議会会長賞	B-1	庭のないマンションで仲間と一緒に園芸を！	兵庫県神戸市	タテニワ倶楽部神戸	同じマンションに住む有志9名で活動。メンバーそれぞれが自宅で育てている植物「タテニワ」を持ち寄り、エントランスなどの共有部に飾っている。各タテニワは個人所有のため、各自が責任と愛情をもって管理している。市販のプラスチック容器に数か所穴を開け、側面に植物（主に観葉植物）を植え込んだもので、並べて積み重ねて飾ることができる。当初はエントランスホールのみでしたが、現在はエントランスの薄型本棚や噴水跡地、キッズルーム前のベランダにも飾っている。時々開催するタテニワ・ワークショップには外部からも多数参加しておりアンケートでは、6割の方が区役所や図書館などの地域の公共施設をタテニワで飾るグループ活動に参加したいと回答された。マンションや会社、学校、地域などで、緩くつながるコミュニティツールとして有効だと考えている。同じマンションに住む人が始めたこの活動は、高く評価すべき事例として屋内緑化推進協議会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞	B-3	明治安田生命新東陽町ビルでの「循環型生産緑化」の展開	東京都江東区	明治安田ビジネスプラス株式会社 明治安田生命保険相互会社	サステナビリティ経営の一環として、自社内での循環型生産緑化に取り組むことを目的に、障がい有する職員が、育苗作業の担い手となっている。育苗後の植物は、「未来世代応援活動」の一環として、会社が協賛しているフットボールツアーに参加する小学生への配付や、職員のSDGsへの意識醸成を目的としたオフィス緑化に活用している。循環型生産緑化の展開により、従業員は日常的に豊かな緑に触れる機会を得ることができ、従業員に癒しを提供し、ストレスの軽減と心身のリフレッシュを促進し、結果として従業員の健康とウェルビーイングが向上している。新たな緑化の生産・利用形態としてこれからの緑化の方向性を示すものと評価され、ハンギングバスケット協会理事長賞に選ばれました。
	公益財団法人日本家庭園芸普及協会会長賞	B-6	一鉢の喜びから始まる、植物との未来	福岡県福岡市	株式会社グッディ	近年、植物がもたらす「癒し効果」や「ストレス軽減効果」への関心が高まっており、「一鉢の喜びが、緑豊かな未来を育てる」―これが、私たちの挑戦の第一歩ととらえ活動を行っている。ワークショップは取り組みやすく、多くの方に関心を持っていただきやすい「花（パンジー・ビオラ）」と、観葉植物を含む「グリーン」に興味を広げていただく仕組みづくりを意識して実施した。市民参加型無料ワークショップとして植物を「学ぶ」体験、「知る」機会を提供し、「市民が主体となって植物とふれあい、育てるきっかけをつくる」ことを目的に開催した。SDGsが掲げる「すべての人に健康と福祉を（目標3）」、「住み続けられるまちづくりを（目標11）」、「陸の豊かさを守ろう（目標15）」といった目標にも寄与している。単なる頒布会ではなく「学ぶ」「知る」の機会を提供していることが評価され（公財）日本家庭園芸普及協会会長賞に選ばれました。
	一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞	B-11	おうち植物園PJー植物と光環境の関係可視化による団地緑化の試みー	東京都北区	手づくり建築工作舎	UR都市機構主催のまちとくらしのトライアルコンペにて選定され実施した、団地住戸の緑化推進のための一連の取り組みである。観葉植物を家に置きたいというニーズは依然高いものの、その種類の多さから、初心者が自力で樹種を選定して購入に踏み切るにはハードルが高いと感じていた。そこで購入のきっかけとなるように、植物と光環境の関係を色によって直感的に判別できるデザインを考案し、様々な企画を通じて認知を広げている。個々の植物に必要な光の量を、植木鉢の色で直感的に判別できるデザインとしています。また団地内の典型的な住戸プランに対して光環境解析を実施し、植木鉢の色とリンクさせ、自宅の植物を置きたい場所を想定することで、植木鉢の色を頼りに好みの植物を選定することができ試みである。マンション内部の光環境提示と生育できる植物を鉢の色で示しており、（一社）日本インドア・グリーン協会理事長賞に選ばれました。
	屋内緑化推進協議会奨励賞	B-15	森とつながるワークプレイスR&D拠点	東京都港区	株式会社パーク・コーポレーション parkERs 中央日本土地建物株式会社	目指す「新しいワークプレイス」および「オフィスの付加価値向上に資する空間」を開発するためのR&D拠点とした。自然豊かで五感に働きかける空間として、社員自ら利用しながらパフォーマンスを最大化するオフィスの在り方検証や、エンゲージメント向上に資するサービス・コンテンツ等の効果検証を行っている。この空間を通じて、利用者が森林や自然とつながるきっかけをつくり、環境配慮やサステナビリティに対する意識を高め、そこから生まれる交流の促進を図っている。社員向けワークショップを1年以上継続して定期開催しており、テナントにも参加枠を開放することで、会社を超えたコミュニケーションが育まれるイベントに進化している。同社保有林の素材を使用したり、同社が出展するイベントの関連資材をリユースしたりで、環境意識を醸成する内容になっている。ワークショップを社内だけでなくテナントも巻き込んで開催しており、屋内緑化推進協議会奨励賞に選ばれました。